



# 産業道路に就て政友會に望む

路 政 僧

積極政策を標榜し産業立國を強調したる政友會が、消極主義に惰したる憲政會内閣に代りて内閣を組織するや、部人士の間には其の積極政策實現の爲に或は我が財政を放漫ならしめ危険に陥らしむること無きかを憂ふるものありしが、吾人は之に反し萬事消極をこれ事とし、ここを爲さざるは爲すに勝るの態度をされる前内閣に慚焉たらざるものありし際なりしを以て、陰鬱なる天地に一縷の光明を認めたる心地して其の組閣を歓迎し大に其の活動を期待して將來爲さむ。

こする所を監視したりしに、不幸にして民衆參加の議會に其の一般抱負の實現を議せしむるの機會を得ずして今日に至りしが、時の轉廻は遂に其の經綸を國民の前に問はしむるに至れり、即ち昭和四年度豫算の編成之なり。

政友會が國民に誓約したる産業立國策は甚だ多種にして北海道拓殖事業擴張の如き限地的のものは格別とするも彼の自作農の創定を始めし曰く何々國民の歡心を買ふに植する景氣の良き事柄歎からず、就中吾人をして最も喜ばしめたるものは所謂産業道路助勢の問題なりき、蓋し原内閣時代に創定したる道路政策は主として國道改良に在りしと雖、内閣の交送する毎に其の計畫は漸次縮小され現在に於ては工事の進捗と補助金の交付との縣隔餘りに甚しく爲に國道改良事業の促進を助けつゝあるの實情なるを以て之を増額するの必要あるのみならず、自動車の經濟的價値を國民生活に利用せむとするの要求は、唯に國道の改良のみを以て満足すべきにあらざり國道の改良を促進すると共に更に進んで地方産業の開発上必要な府縣道を改良しこの兩者を並び行ひて國民生活の向上發展を期せむとするもの、即ち政友會の所謂産業道路政策にして、政友會の政策を實現すべき現内閣は其の抱負經綸を昭和四年度豫算の上に如何に顯現せむとせるか。

仄聞する所に依れば、内務省は叙上の見地に於て、國道の改良を主とする從來の道路政策を改訂し、昭和三年度以降十年間に三百六十萬圓を以て軍事國道三十里を改良し、府縣をして普通國道六百里を改良せしめ都市をして都市内國道府縣道七十里を改良せしめて、之に對し國庫より一億四千七百萬圓を補助するの外之に必要な事務費を合せて一億二千百萬圓を支出し、更に産業道路千五百里を改良せしめて六千二百四十三萬圓を補助する計畫を樹て、其の初年に於ては

千二百萬圓の豫算を編成せむとしたるも、藏相は之を七百萬圓に査定して昭和三年度豫算は編成されたりしが議會解散の爲に其の豫算は、成立するに至らずして已みたり、仍て昭和四年度豫算に於ては普通國道の改良に七百萬圓産業道路に三百萬圓を要求し、更に昭和三年度追加豫算として産業道路費に二百萬圓を要求したる趣なるも、三土藏相は之を査定し、憲政會内閣時代に決定したる支出額三百五十萬圓の豫算を認めて、國道改良費の増額は勿論産業道路費を全部否認するの暴舉に出でたり

日進月歩の今日に於て、十年の永きに互り道路計畫を按するの餘りに姑息なる内務當局の要求原案に對し、尠からず不満を感じつゝあるに拘はらず、尙之を査定して憲政會内閣時代の確定額に止めむとするが如き藏相の意見に對し、吾人は之を評するに適當なる言辭を有せず、蓋し政友會が曾て國民に聲明したる産業立國實現の爲には、人の生活する隨所に必要なる交通機關の整備を措いて他に何者も之に優れるものを見出す能はず、國民生活の圓滑諸興業の進展を企圖するに道路の完備に俟たざるべからず、換言すれば道路を改良することは産業立國の根源にして原動力たり、之を閉却し産業立國策を口にするが如きは緣木求魚の類に外ならずいふべし、這裡の事理明白なるに拘らず與黨の聲明を無視して無自覺なる査定を爲したるは如何なる理由に依れるか、藏相は財源の枯渴を理由とし公債募集の否なるを説き消極豫算の已むべからざるを辯明し、田中首相も亦所謂伸びむが爲の消極政策を謳歌す、或は以て一通辭をなすべし、併しながら身荷も政治家として政友會の主領たるの地位を占め、夫れに依りて藏相たり首相たり得たる者が曖昧なる言辭を弄して民衆に聲約したる所を捨て晦冥裏に葬り去らむとする如き、吾人の斷して許さざること。

固より我國財政の豊富ならざるは今敢て政府當局の説明を俟つまでもなく何人もよく之を知る、之を知りつゝも尙且

つ産業立國を強調したる所以のものは、そこに自覺的定見の存したる所なるべきに不拘、今之を一理由に數ふるが如きは自ら無智を告白するもの宣敷不明を天下に謝すべきのみ、亦募債額減少論の如き必ずしも咎むべきに非ず。雖、道路改良事業の如き其の性質に鑑るべきは、之が負擔を現代人にのみ課すべきに非ずして寧ろ公債政策に依るの合理的なるを以て、藏相査定意見の如きは一顧の價値なきものと評せざるを得ず、反對論者が三土藏相の編成したる豫算を目し、進んで積極政策を採るに非ず、退いて財政を緊縮するに非ずと、評するも亦故なきに非ざるべし、不幸にして萬一藏相の意見に従つて豫算の編成を了せむか、府縣が政府の獎勵に依り國庫補助を前掲して昭和三四兩年度に於て計畫したる九千九百萬圓の道路事業は廢棄するの已むべからざるに至り、産業立國の聲明と相反する結果を惹起するに至るや明なるのみならず、其の既に工事に着手したるものに在りては、國庫補助の財源を失ひ起債の償還を不可能ならしめ或は歲入の缺陷を招來して地方財政は遂に收拾すべからざる苦境に陥るや明かなる。

以上の如き結果を想定するも、尙從來の聲明を顧みず産業立國の黨是を放棄するに在らば吾人何をか言はむ、苟も政黨の職能を果たさむとせば、誠意以て民衆に誓約したる所を實行し、以て政友會の政策を謳歌して追隨したる民衆の希望を容るゝことこそ、政黨の本領否な責務なるべし、政友會の諸氏、政治的責任を持するあらば思を茲に致し黨是の實現に忠實なるべく、之が爲には夫れを妨ぐる閣僚の辭職を以てするも亦美はしき政黨政治の犠牲として己むを得ざる所なるべし、二三の閣僚に牽制され獨斷的行動に拘束せらるゝ如きは民政黨幹部の專斷に不平を抱き崩壊しつゝ、ある同黨の現狀に鑑み郷等の生くる途に非ざるを知るべし、敢て速に産業道路の達成に力むることの郷等の使命なるを訓ゆ。

(昭昭三、一〇、二五)